今月の御教え

世の人があれこれと神のことを口端にかけるのも、神のひれいじゃ。人の口には戸が閉てられぬ。先を知ってはおらぬぞ。いかに世の人が顔にかかるようなことを言うても、腹を立てな。神が顔を洗うてやる。

……金光教祖御理解　第九十六節……

解説

私達が、信心していることを、信仰のない人からけなされても、又、何かの事で人から誤解されて中傷されても、神様に願って腹を立てず辛抱してゆけば「必ず神様が良いようにして下さる。」との思し召しであります。

ちなみに、この御理解の出典の根拠は、彼の『山伏の迫害』にある事は間違いないと思われます。「日柄方位は見なくてもよい」との金光大神様の教えは「日柄方位」や「金神封じ」を掲げて加持祈祷をし、金品を強要する彼ら山伏達にとっては、「商売仇」の如く思われ、あらゆる無法な暴挙でもって金光大神の神前奉仕を妨害したのであります。それに対して憤慨し色めき立つ参拝者に対して「抵抗することも腹を立てることも要らぬ、放っておきなさい、神様が彼らの顔を洗ってくれます」と諭され時のお言葉であります。御理解文中の『先を知ってはおらぬぞ』とのお言葉の意味は、当時は為政者の庇護のもと横暴を極めていた山伏ですが、これより十年を待たずして、世が変わり、明治五年の改暦により、遂に修験道が廃絶され、彼らは警察からは厳しく取り締まられ、生活の糧を失い路頭に迷うことになるのですが、正にその結末を予言されたお言葉であります。

この事例の如く、何事においても、親神様・金光様の教えに従って信心辛抱に勤しめば、必ず先々大きなお蔭を蒙らせて下さるのであります。